

Q1～6【支援の実際】の キーポイントをまとめると…！



その子に合った高さのハードル（目標や課題）を！

アテネオリンピックで金メダルを獲得した北島選手のコーチは「がんばれば達成できる目標を与えることが大事」と話していました。

目標や課題を「ちょっとがんばればできるレベル」に設定すれば、それを越えることができた成功感・達成感が積み重ねられ、自信を深めることにつながります。このようなセルフエスティームの高まりが、少しずつ困難を乗り越えようというエネルギーにつながっていきます。

目標や課題を、その子にとって「ちょっとがんばればできるレベル」に設定するためには、実態把握が大変重要になります。

また、いつも右肩上がりに向上していくことを目指すのではなく、以前と同じに維持できたことを認めることも大事にしたいところです。

子どもは子ども同士の中で伸びていく

発言を拍手で認めるクラスがあります。拍手された子どもの「僕はできた」という自信にあふれた笑顔と嬉しそうな表情は、同級生から認められ賞賛されることが、大人が褒めるよりも数倍の効果があることを表しています。

虫の大好きな少年が「のはらうた」の学習との出会いの中で級友に認められ大きく変わっていった姿を参照してください（自律教育シリーズ第1集IV章事例5）。

子どもは子ども同士の中でこそ伸びていきます。

そのために私たちにできることは、仲間に認められたり生き生きと活躍できたりする場面を教育活動の中に設定していくことです。毎日毎日の生活の中に「認め合い」が生まれる地道な実践が大切です。